

—2025年の経営の振り

返りを

—26年の展望は
「(大日本コンサルタントとダ
イヤコンサルタントが経営統合し
て以来) 売上高も粗利も順調に増
えているが、統合関連のコスト増
の影響が残り、営業利益は伸び悩
んでいる。人件費や外注費などコ
ストが上昇している中で、生産性
が思つように高まつていないこと
は反省点だ。業務の手戻り防止や
他の効率化の取り組みを、本格的

る中、これからは民間事業に本格
参入し、新たな柱を確立していく
リスク評価など、BCP(事業繼
続計画)の観点からの提案につな
げたい」

—M&A(企業の合併・買

収)戦略は

はらだ まさひこ
原田 政彦 社長

「政府予算があまり増えておらず、当社のコアである新設の構造設計業務は明らかに減少した。一方で、原子力発電所関連では新設に向けた調査などの動きが出てきた。建設に向けた地質調査は単年度では終わらないため、需要を捉えて構造分野の落ち込みをカバーしていきたい」

民間分野への事業展開狙う

に利益に結びつけていく

『DN-RAMS』を積極的に展
開していく

増やしていきたい



に利益に結びつけていく
「公共市場では予算の増加が見
込まれる防衛分野に注目してい
る。安全保障に関わるインフラ整
備として、特定港湾・空港施設、
道路などを重点的に狙う。公共事
業関連の予算が頭打ちとなり、業
務量が少し減っていく可能性もあ

」「地震や豪雨といった異なる災
害シミュレーションの結果を統合
して、一つの地図上で把握できる
点が強みだ。地方自治体だけでな
く、民間企業に向けても、工場周
辺のアクセス道路が被災した際の



横顔

最近、14歳のバイオリニスト・高
妃鞠さんの演奏に心をつかまれた。
「クラシックに関心はなかった」と
いうが、コンサートにも行きたいと
笑う。